

# スーパーマーケット景気動向調査

2019年1月調査結果（12月実績）  
（2019年1月22日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

## 【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

---

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

## 【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

---

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会  
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会  
オール日本スーパーマーケット協会

# 1月調査（12月実績）結果概況

## 景気判断DIは現状・見通しともに小幅に持ちなおし

12月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI現状判断は前月から+1.9の43.8、見通し判断は前月から+1.8の42.0となり、どちらも前月から小幅な改善となった。

経営動向調査では、売上高DI、収益DI共に二桁マイナス圏と前月とほぼ同水準となった。青果相場に前年高騰からの反動により、生鮮仕入原価DIは-5.7とマイナス圏に低下したことで、客単価DI-2.2、来客数DI-15.6とどちらもマイナスとなったことが影響している。

カテゴリー動向調査では、青果相場安に加え中旬まで前年より高い気温となったことで、鍋商材を中心に不振となり、青果DIが-24.4と大幅なマイナスを記録した。また畜産DIは-9.3、日配DIは-9.1などもその影響を受けた。下旬以降、気温の低下と共に回復傾向がみられたカテゴリーが多いが、月を通じて巻き返すまでに至らなかった。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査では、現状判断、見通し判断ともにひとまず下げ止まりをみせたが、消費者購買意欲DIの見通し判断のみもう一段悪化しており、今後の消費に対する不安は根強くなっている。（周辺地域景気動向DI長期傾向参照）

ゆるやかな回復傾向を続けていた景況感であったが、前月青果相場が低下し、気温により冬物商材の動きが悪くなったことで、水準を大幅に切り下げた。クリスマス・年末商戦では、他業態との価格競争の厳しさを指摘する声がある一方で、高単価商品の訴求や、家庭で過ごす正月を意識した戦略が成果を上げた事例も報告されている。毎年異なる曜日巡りにより、購買行動は大きく変化する時代となっている。スーパーマーケットにおいて、その予測と順応への必要性は年々高まっている。

### 景況感調査

#### 現状判断

<b>景気判断DI</b> 当月：43.8 (+1.9) 前月：41.9	<b>消費者購買意欲DI</b> 当月：44.1 (+0.6) 前月：43.5	<b>周辺地域 競合状況DI</b> 当月：40.0 (+1.2) 前月：38.8	<b>店舗周辺地域 景気判断DI</b> 当月：45.5 (+0.5) 前月：45.0
--	---	---	---

#### 見通し判断

<b>景気判断DI</b> 当月：42.0 (+1.8) 前月：40.2	<b>消費者購買意欲DI</b> 当月：40.9 (-1.9) 前月：42.8	<b>周辺地域 競合状況DI</b> 当月：39.2 (+1.7) 前月：37.6	<b>店舗周辺地域 景気判断DI</b> 当月：44.3 (+0.2) 前月：44.1
--	---	---	---

### 経営動向調査 経営状況

<b>売上高DI</b> 当月：-13.2 (-1.4) 前月：-11.8	<b>客単価DI</b> 当月：-2.2 (+2.3) 前月：-4.5	<b>来客数DI</b> 当月：-15.6 (-1.0) 前月：-14.6	
<b>収益DI</b> 当月：-10.2 (+1.5) 前月：-11.7	<b>販売価格DI</b> 当月：-3.7 (-0.7) 前月：-3.0	<b>生鮮品仕入原価DI</b> 当月：-5.7 (-3.7) 前月：-2.0	<b>食品仕入原価DI</b> 当月：1.9 (-0.1) 前月：2.0

### カテゴリー動向

<b>青果DI</b> 当月：-24.4 (-20.9) 前月：-3.5	<b>水産DI</b> 当月：-4.4 (+7.3) 前月：-11.7	<b>畜産DI</b> 当月：-9.3 (+6.7) 前月：-16.0	
<b>惣菜DI</b> 当月：-2.9 (-3.3) 前月：0.4	<b>日配DI</b> 当月：-9.1 (+1.6) 前月：-10.7	<b>一般食品DI</b> 当月：-5.7 (+0.7) 前月：-6.4	<b>非食品DI</b> 当月：-11.3 (+3.3) 前月：-14.6

○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

# 1月調査（12月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

## 1. 売上高DI

2カ月で二桁マイナスを記録し低迷

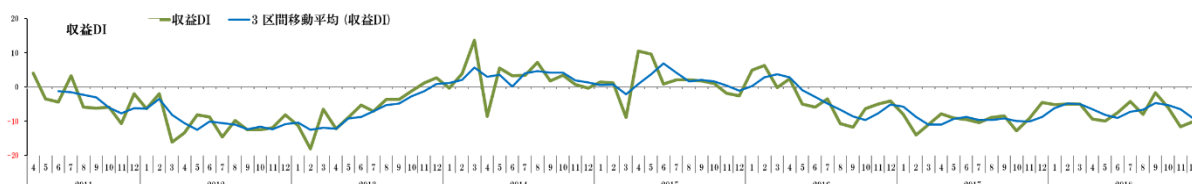
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	13.2	42.3	24.3	18.5	1.6	-11.8
<b>売上高（当月）</b>	<b>14.2</b>	<b>40.8</b>	<b>30.8</b>	<b>11.8</b>	<b>2.4</b>	<b>-13.2</b>



## 2. 収益DI

2カ月で二桁マイナスを記録し低迷

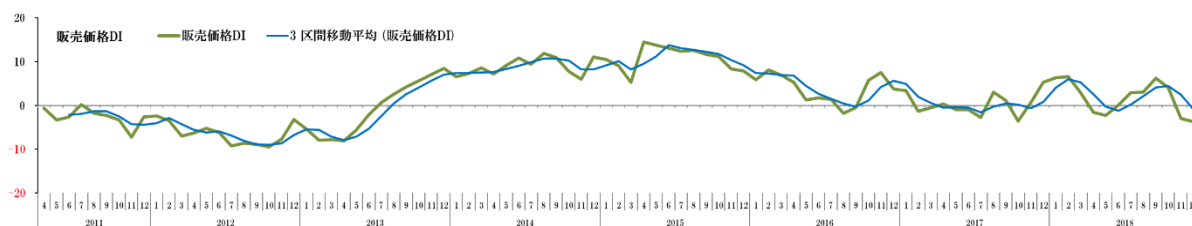
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	12.0	41.8	30.4	12.5	3.3	-11.7
<b>収益（当月）</b>	<b>9.6</b>	<b>41.3</b>	<b>34.1</b>	<b>10.2</b>	<b>4.8</b>	<b>-10.2</b>



## 3. 販売価格DI

小幅ながらマイナス圏での推移が継続

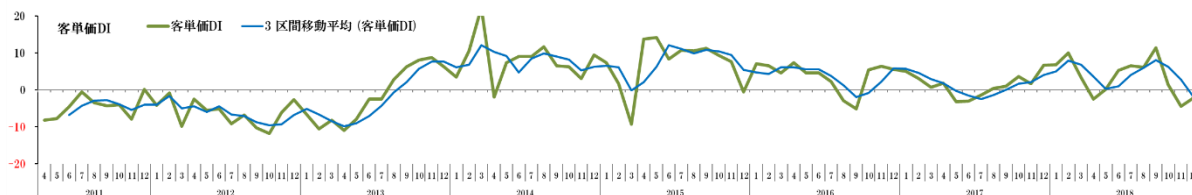
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	1.6	20.6	66.1	11.6	0.0	-3.0
<b>販売価格（当月）</b>	<b>1.2</b>	<b>25.0</b>	<b>61.3</b>	<b>12.5</b>	<b>0.0</b>	<b>-3.7</b>



## 4. 客単価DI

小幅ながらマイナス圏での推移が継続

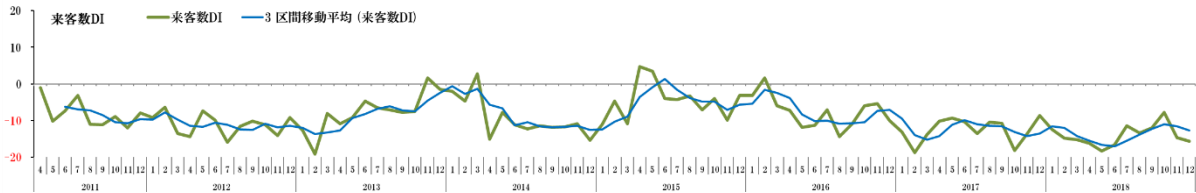
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	1.6	32.1	48.9	17.4	0.0	-4.5
<b>客単価（当月）</b>	<b>1.2</b>	<b>29.8</b>	<b>47.0</b>	<b>20.8</b>	<b>1.2</b>	<b>-2.2</b>



## 5. 来客数 DI

2 カ月で二桁マイナスを記録し低迷

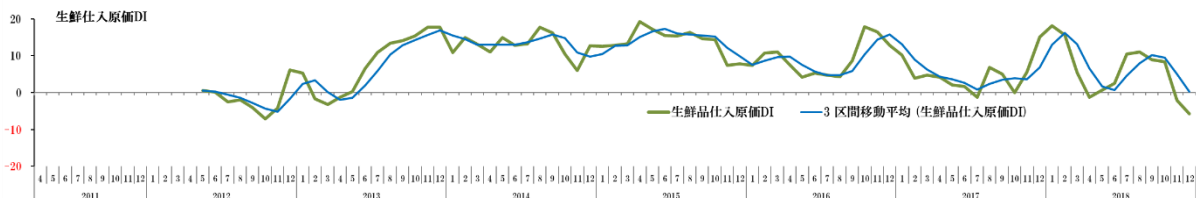
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	13.8	47.9	22.9	13.8	1.6	-14.6
<b>来客数 (当月)</b>	<b>14.3</b>	<b>44.0</b>	<b>32.1</b>	<b>8.9</b>	<b>0.6</b>	<b>-15.6</b>



## 6. 生鮮仕入原価 DI

4 月以来のマイナス記録後、さらに下落

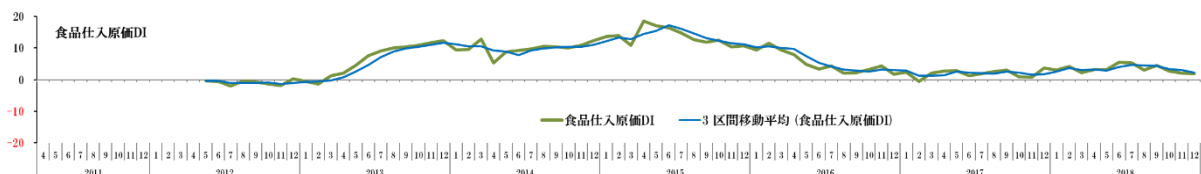
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	3.8	22.6	51.6	22.0	0.0	-2.0
<b>生鮮仕入原価 (当月)</b>	<b>7.8</b>	<b>27.1</b>	<b>45.2</b>	<b>19.9</b>	<b>0.0</b>	<b>-5.7</b>



## 7. 食品仕入原価 DI

小幅プラス圏での横ばいでの推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.7	7.0	70.6	19.3	0.5	2.0
<b>食品仕入原価 (当月)</b>	<b>1.8</b>	<b>9.6</b>	<b>68.3</b>	<b>19.8</b>	<b>0.6</b>	<b>1.9</b>

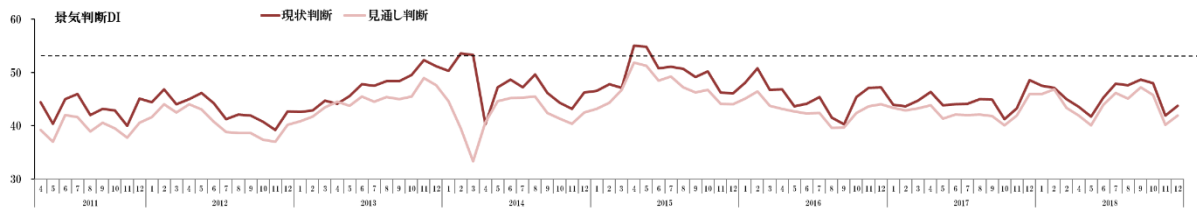


## II. 景況感調査 (2011年4月～/周辺地域景気判断のみ 2010年4月～)

### 1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断、見通し判断共小幅に改善

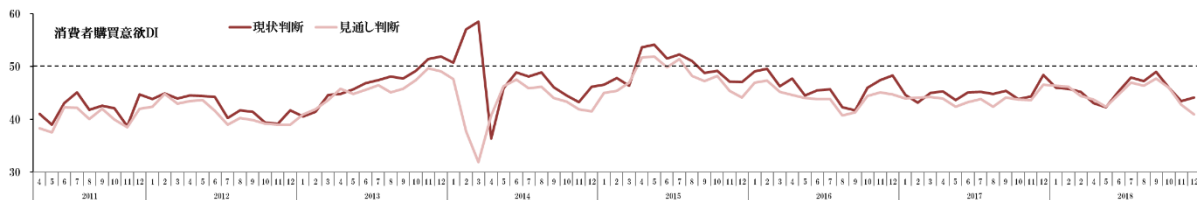
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	4.2	31.4	57.1	7.3	0.0	41.9
【現状】景気判断 (当月)	4.1	27.2	59.2	8.3	1.2	43.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	4.7	36.6	51.8	6.8	0.0	40.2
【見通し】景気判断 (当月)	4.8	31.0	56.5	7.1	0.6	42.0



### 2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は横ばいも、見通し判断はさらに悪化

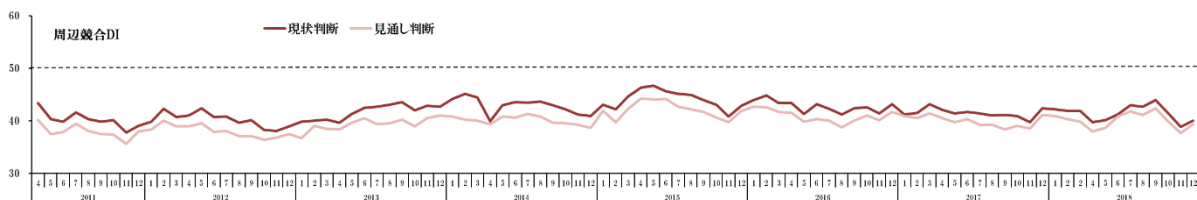
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	2.1	28.3	63.9	5.2	0.5	43.5
【現状】購買意欲 (当月)	1.8	28.4	62.1	7.1	0.6	44.1
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	1.6	33.5	57.6	6.8	0.5	42.8
【見通し】購買意欲 (当月)	2.4	35.1	58.9	3.6	0.0	40.9



### 3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共にやや改善

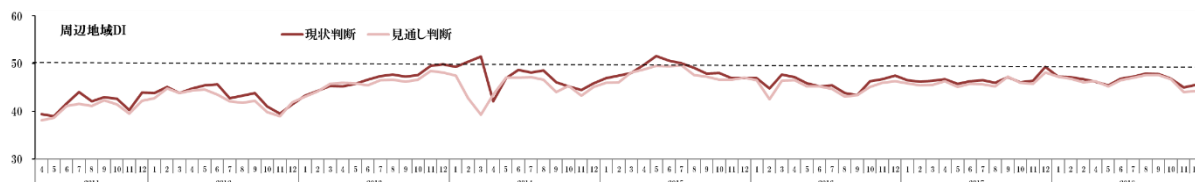
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	6.3	34.7	56.3	2.6	0.0	38.8
【現状】競合状況 (当月)	6.0	31.1	59.9	3.0	0.0	40.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	9.5	32.1	56.8	1.6	0.0	37.6
【見通し】競合状況 (当月)	6.6	31.9	59.0	2.4	0.0	39.3



#### 4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

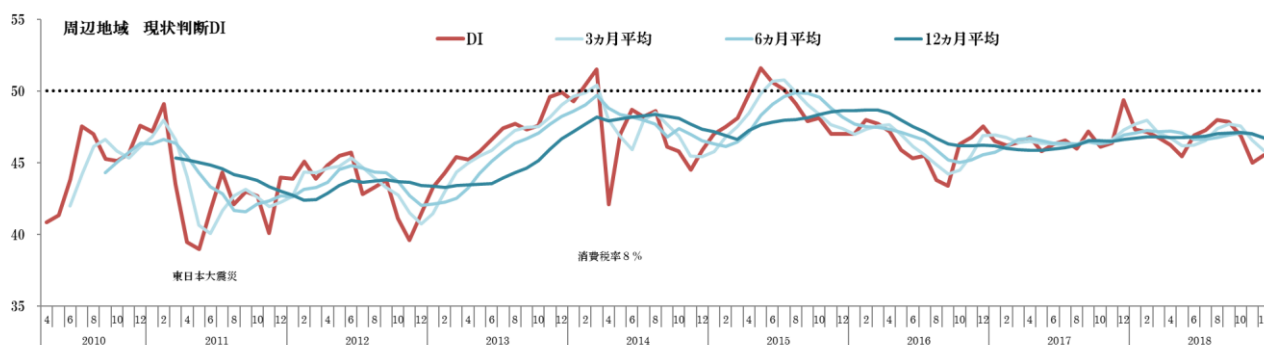
現状判断、見通し判断共前月とほぼ変わらず

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	1.1	18.9	78.9	1.1	0.0	45.0
【現状】地域景気 (当月)	1.2	17.9	78.6	2.4	0.0	45.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	1.6	22.1	74.7	1.6	0.0	44.1
【見通し】地域景気 (当月)	1.2	22.2	74.9	1.8	0.0	44.3



#### ※長期傾向 (2010年4月～)

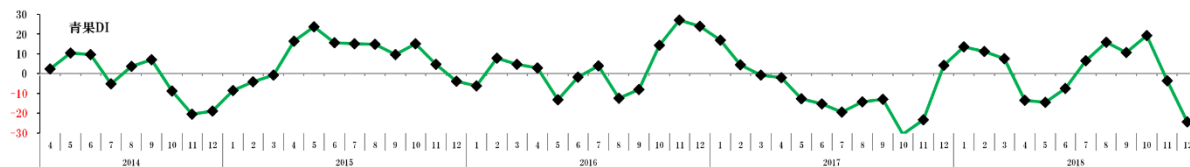
11年3月の東日本大震災後低迷を続けていたDIは、12年11月から16ヵ月にわたり改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率引き上げにより大きく悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には調査開始以来の最高値を更新し、現状判断DIは51.6にまで達した。しかしこれをピークとし、その後15ヵ月にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以降やや改善傾向が続いていたが、18年に入り悪化傾向が続き、5月には移動線付近を下回る水準まで低下した。その後6月以降は改善傾向が続いていたが、10月から悪化し12月には大幅な悪化をみせた。



### Ⅲ. カテゴリー別動向

#### 1. 青果DI：-24.4（かなり不調）

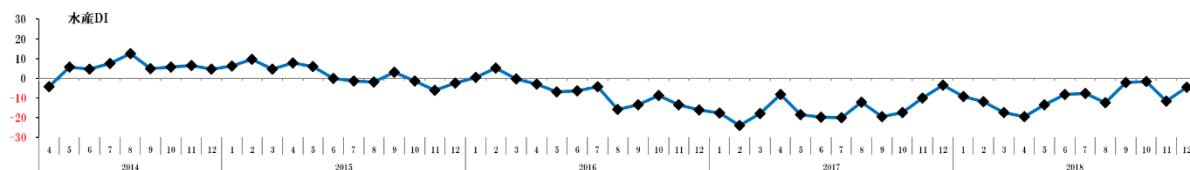
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果 (前月)	10.0	31.7	25.6	27.8	5.0	-3.5
<b>青果 (当月)</b>	<b>31.4</b>	<b>43.4</b>	<b>17.6</b>	<b>6.3</b>	<b>1.3</b>	<b>-24.4</b>



白菜や大根など大型野菜を中心に相場安となるなか、前年の相場高騰からの反動も加わり、大幅な単価減となり、カテゴリーとしてかなり不調となった。前年と比べて高い気温により、鍋物食材の動きが悪くなった。サラダ関連も伸び悩んだが、ミニトマトは好調というコメントが多くみられた。国産果物類はみかんやイチゴ、りんご、輸入果物ではキウイフルーツが好調であり、引き続きカットフルーツも動きがよかった。

#### 2. 水産DI：-4.4（やや不調）

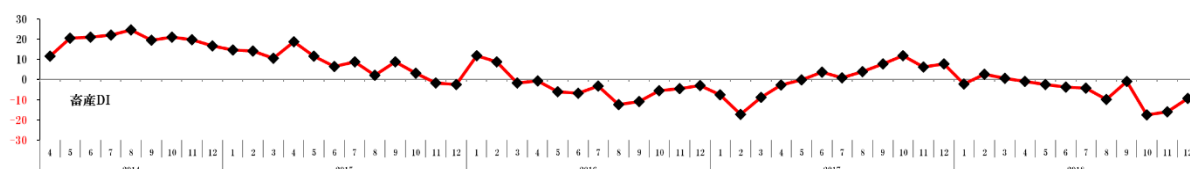
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産 (前月)	14.4	38.9	26.7	18.9	1.1	-11.7
<b>水産 (当月)</b>	<b>9.5</b>	<b>31.0</b>	<b>31.0</b>	<b>24.7</b>	<b>3.8</b>	<b>-4.4</b>



特に中旬まで、前年より高い気温により鍋物用食材（ぶりや牡蠣、タラなど）の不振が続いたが、気温の低下とともに相場の安定しているエビやカニに回復傾向がみられた。年末商戦のおせち、数の子、寿司、刺身類は好調となった店舗が多い。生魚は引き続き、水揚げ量の減少や価格高騰により苦戦しているものの、昨年のアニサキス報道による低迷からの反動を指摘するコメントもみられた。

#### 3. 畜産DI：-9.3（やや不調）

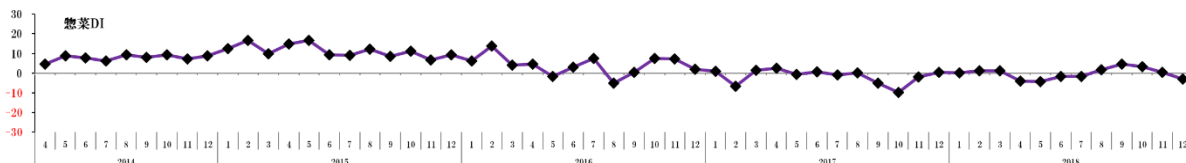
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産 (前月)	19.3	40.3	26.5	12.7	1.1	-16.0
<b>畜産 (当月)</b>	<b>12.0</b>	<b>34.2</b>	<b>34.8</b>	<b>17.1</b>	<b>1.9</b>	<b>-9.3</b>



中旬までは前年より気温が高く、総じて鍋物用を中心に動きが悪かったものの、下旬から気温が低下し、クリスマスから年末にかけては総じて動きがよくなった。豚肉相場が下落傾向にあり数量を伸ばした店舗が多かった。牛肉は焼肉やステーキ用が好調だが、価格の高騰している和牛から輸入にシフトしたことで単価が下落した店舗もみられた。鶏肉は相場低下も影響し、前半の不振を後半カバーできなかった店舗が多かった。加工肉は引き続き不調とするコメントが多いが、一部からは回復を指摘するコメントもみられた。

#### 4. 惣菜DI：-2.9（やや不調）

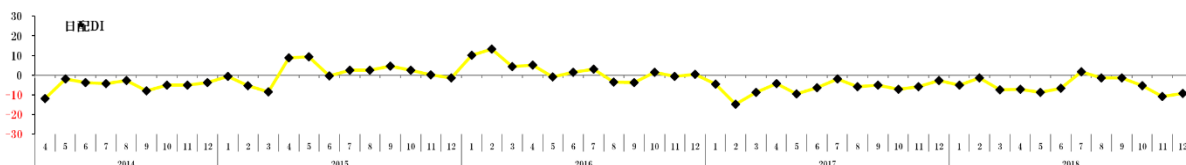
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	4.5	28.7	33.7	27.0	6.2	0.4
<b>惣菜（当月）</b>	<b>3.2</b>	<b>32.1</b>	<b>42.3</b>	<b>17.9</b>	<b>4.5</b>	<b>-2.9</b>



中旬までは気温が高く、ホット惣菜の動きが悪かったものの、天候に恵まれ好調に推移した店舗が多かった。クリスマス商戦は当日が平日となった影響でオードブルの動きが悪い一方で、チキンや寿司が好調となった。年末商戦はオードブルや寿司を中心に好調とするコメントが多かった。前年青果相場の高騰により好調であったサラダ関連は不振であった。人手不足により十分に商品供給ができなかった店舗もみられた。

#### 5. 日配DI：-9.1（やや不調）

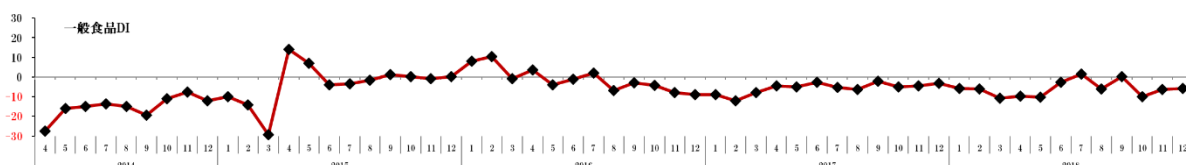
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	10.6	36.7	38.9	12.8	1.1	-10.7
<b>日配（当月）</b>	<b>11.9</b>	<b>30.2</b>	<b>42.1</b>	<b>13.8</b>	<b>1.9</b>	<b>-9.1</b>



中旬までの高い気温により、鍋おでん商材関連の和日配や麺類などのホットメニューの動きが悪かった。また青果相場下落により漬物や冷凍野菜が不調となった。健康報道により、納豆、カニカマ、梅干しには特需が続いている。洋日配では機能性ヨーグルトやバター、チーズが好調となったが、クリスマスケーキをはじめとするデザート類は不調となった。パン類は他業態との競合状況により好不調の判断が分かれた。年越しそばや年末商戦は比較的好調とするコメントが多い。

#### 6. 一般食品：-5.7（やや不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	8.3	34.8	34.3	19.3	3.3	-6.4
<b>一般食品（当月）</b>	<b>5.7</b>	<b>31.6</b>	<b>43.0</b>	<b>19.0</b>	<b>0.6</b>	<b>-5.7</b>

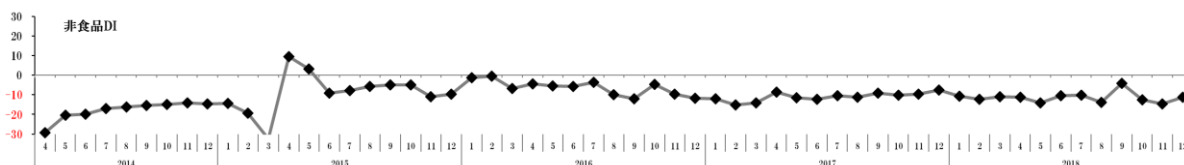


中旬までの高い気温により鍋用調味料や麺類やシチューなどホット商材は総じて不振となったが、クリスマス以降は改善傾向がみられた。報道によりサバ缶や食油に特需が継続している。酒類は周辺店舗との価格競争により好不調がわかれた。餅などの年末商材は売り出しを早めた店舗が多かったが、最終週に動きがよくなった。特に高価値商品の動きがよかったとのコメントが多い。ドラッグストアやディスカウントストアとの価格競争の激化を指摘するコメントがみられた。



## 7. 非食品DI：-11.3（不調）

回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	18.3	35.4	33.7	11.4	1.1	-14.6
非食品（当月）	12.3	35.5	39.4	11.0	1.9	-11.3



中旬までカイロなどの冬物の動きが悪かったほか、マスクなどのインフルエンザ対策用品も伸び悩んだ。タバコは値上げ後の落ち込みが落ち着き、売上が好調となった。年末に向けホームセンターやドラッグストアなどの価格攻勢が厳しく、掃除や家庭日用品を中心に販売の低迷が続いている。

### カテゴリー別DIによる好不調判断

かなり好調：～20      好調：20～10      やや好調：10～0  
 やや不調：0～-10      不調：-10～-20      かなり不調：-20～

### 2019年1月調査（12月実績）キーワードTOP3

1. 中旬までの高温
2. 青果相場安
3. クリスマス以降堅調

### スーパーマーケット景気動向調査 集計数

12月実績速報版 169社  
 11月実績確報版 191社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 [tokei@super.or.jp](mailto:tokei@super.or.jp)